



## 実践団体・プラン基本情報

## 実践団体の基本情報

記入日	西暦 2024 年 1 月 13 日 (2023 年度のチャレンジプラン)
プラン名	SDGs×防災で未来を拓く
実践団体名	兵庫県立明石北高等学校
代表者名	藤原 生也
電話番号	078-936-9100
メールアドレス	<a href="mailto:s165311@hyogo-c.ed.jp">s165311@hyogo-c.ed.jp</a>
実践団体の説明	2010 (平成 22) 年よりスーパーサイエンスハイスクール研究指定校となり現在は第 3 期に入っている。SSH のノウハウを生かし全校を挙げて探究学習に力を入れている。また大学、企業、研究機関等との連携、国際交流、異校種や地域との交流など多方面にわたって生徒の学びと活躍の場を広げてきた。2022 (令和 4) 年より兵庫県防災ジュニアリーダー育成事業に参加し、生徒のアイデアを活かしながら主体的に取り組める防災教育を進めている。
所属メンバー	榎田 順子 <地歴公民科 (地理総合担当)・総務部長 (防災担当) >
活動の本拠地	兵庫県明石市大久保町松陰 364-1
活動開始時期・結成時期	1972 (昭和 47) 年開校
過去の活動履歴・受賞歴	社会貢献活動として、地域と協力してのクリーンアップ大作戦、花づくりふれあい運動、高齢者向けスマホ教室の開催などを継続して行っている。また難病の研究に役立ててもらったための 193 (いくみ) 募金に参加し、京都大学 iPS 細胞研究所への寄付を定期的に行っている。

## プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係
プランの運営側の人数 (実数)	約 16 人
プランの活動地域	兵庫県明石市



プランの防災教育の対象者	7. 高校生
防災教育の対象者の人数（実数）	約 320 人
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害 9. 災害全般
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得 10. その他（具体的に：防災学習を通して思考力・判断力・表現力と主体性を育む）
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い 9. その他（具体的に：自分の夢・キャリアと防災のかかわりを理解する）
プランの活動形態	5. 教科 6. 特別活動 8. 学校内の諸活動 11. 家庭や地域で行う個別学習
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 8. 国・地方公共団体 16. 個人
実践にかかった金額	106,575 円



## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生「地理総合」のプランについて、全職員に周知</li> <li>・防災 LHR 案を全職員に周知（兼職員研修）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合授業案作成</li> <li>・防災 LHR 案作成</li> <li>・連休課題作成、指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス（*前年度末に作成済）の説明</li> <li>・授業</li> <li>・防災 LHR</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合授業案作成</li> <li>・考査作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連休課題「新旧地図の比較/災害リスクの理解」</li> <li>・授業、一学期中間考査</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間情報共有</li> <li>・講演会講師との打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合授業案作成</li> <li>・防災教育講演会要項作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育講演会要項と資料を全職員に周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査作成</li> <li>・夏季課題作成、指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一学期末考査</li> <li>・防災教育講演会</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題進捗状況の確認（Google Classroom）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季課題「地域調査（防災まち歩き）」</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間情報共有</li> <li>・ワークショップ（2時間連続）のための時間割調整</li> <li>・ワークショップ講師との打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合授業案作成</li> <li>・レポート発表、相互評価、振り返りの準備と指示</li> <li>・ワークショップの指導案作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査レポート発表</li> <li>・授業</li> <li>・防災だより発行</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの概要を全職員に周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合授業案、考査作成</li> <li>・ワークショップの事前視聴動画の配信、視聴指示、視聴メモの回収・点検</li> <li>・シェイクアウト訓練要項作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、二学期中間考査</li> <li>・ワークショップ（災害時の課題と対応/避難運営）</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シェイクアウト訓練概要を全職員に周知（兼職員研修）</li> <li>・講演会講師との打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合授業案、考査作成</li> <li>・防災 LHR 案作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業</li> <li>・シェイクアウト訓練</li> <li>・防災だより発行</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災 LHR 案を全職員に周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業案作成、考査作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、二学期末考査</li> </ul>



月	知（兼職員研修）	・ 冬季課題作成、指示	・ 人権×防災講演会 ・ SDGs×防災講演会 ・ 防災 LHR
1月	・ 明石市長へのプレゼン企画を全職員に周知 ・ 明石市「市民とつながる課」との打ち合わせ	・ 授業案作成 ・ 冬季課題（プレゼン用ポスター）相互評価の準備 ・ 相互評価の実施と代表者の選出	・ 冬季課題「ポスター作成（まちづくりにむけて）」 ・ 授業 ・ 防災だより発行 ・ 1. 17 追悼行事
2月	・ 防災学習案を全職員に周知（兼職員研修）	・ 作成したポスター（全生徒分）を校内に掲示 ・ 生徒に「夢と防災」の関連を調べるよう指示	・ 明石市長へのプレゼン「まちづくりへの要望・提案」 ・ 授業、学年末考査
3月	・ チャレンジプラン実践内容を職員会議で報告	・ 防災学習のコンテンツを生徒から募集	・ 防災学習 ・ 防災だより発行



## 実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>[目的]</p> <p>必修科目「地理総合」を核として、防災教育を日常の学習に取り込み、防災文化の構築（防災のあたりまえ化）をはかる。またカリキュラム全体を通して持続可能な社会づくりと防災の共通点&lt;No one left behind&gt;を意識し、地域の自然環境と社会環境をふまえて主体的に防災に向き合い、自助と共助の力を高める。</p> <p>[方法]</p> <p>①「地理総合」の学習目標に{個と社会の防災力向上}を掲げ、一年間を通して未災者である生徒と教師が共に学び合う。</p> <p>②地理的な物の見方・考え方をベースとして災害の要素・災害のサイクルを理解する。また地理的技能を防災情報の収集や活用、災害対応に役立てる方法を学ぶ。</p> <p>③自己も含めた多様性を尊重し、誰もが安心して暮らし続けられる持続可能なまちづくりに向けて課題を見出し、その解決に向けての探究を行う。</p> <p>④上記①～③をふまえて、まちづくりへの提案をまとめ、学校内外で発信する。</p> <p>[成果]</p> <p>基礎的な地理学習を通して、ハザードマップ等の複数の情報を活用し、リスクと対応策を挙げて他者と協議したり、提案したりする技能を身につけることができた。また地理的な物の見方に立って災害の誘因と素因を理解することで、防災・減災のために個々の立場で何ができるか多角的に考え、活発に意見を交わせるようになった。地域調査・ワークショップ・プレゼンテーション等の様々な活動を取り入れたり、他教科や特別活動と連携したりすることで、生徒のみならず、見守る教職員も防災活動に対するイメージが広がり、学校全体で協力的な雰囲気が醸成された。</p>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



<p>プランの「チャレンジ」の結果</p>	<p>チャレンジ（１）「地理総合」１年間の授業を通して少しずつ「防災のタネ」をまき、防災の「あたりまえ化」をはかる。</p> <p>[結果]2 単位（週に 2 回）の地理総合で毎時間少しずつ防災に触れることで、日常的な学びの中に、ごく自然に防災が入り込んだ。地理総合以外の時間（「公共」・学校設定科目「SDGs 探究」「総合的な探究の時間」・LHR など）でも防災に関連した活動が増えた。地理総合における指導方法が定着すれば、この先おのずと、学校全体に防災文化が広がっていく見込みが生まれた。</p> <p>チャレンジ（２）「明石は災害が少ないまち」というイメージ（行政も発信しているメッセージ）を鵜呑みにすることの危険性に気付き、行動する。</p> <p>[結果]大人に比べて経験や既知の事実が少ない高校生だからこそ、災害の定義（ハザードに対する防災力の低さから生じる被害）を正確に理解した上で、客観的に情報を収集・整理し、判断を行うことが可能である。これによって、必要な防災力を獲得しようとする意欲が高まり、知識・技能の習得・定着につながった。またそれらを活用して、根拠と説得力をもったまちづくりの提案を行い、生徒と大人（行政）の対話のきっかけをつくることができた。</p> <div data-bbox="699 1503 1034 1715"></div> <div data-bbox="1050 1637 1422 1711"><p>授業でのグループワーク</p></div>
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



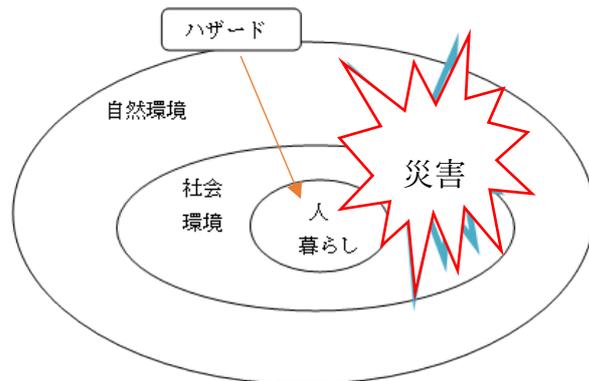
実践内容・方法・成果

実践内容1 科目「地理総合」授業の工夫

方法(1)シラバスに「命と暮らしを守る視点」を明記。

学習内容	命と暮らしを守る視点
地図と地理情報システム	ハザードマップを活用し、地域のリスクを理解して「自助」の力を伸ばそう
人々の生活文化と多様な地理的環境	災害時要配慮者について考えよう 災害による産業への影響を考えよう
さまざまな地球的課題	災害の被害を拡大する「社会の脆弱性」について考えよう
地球的課題と国際協力・自然環境と防災	持続可能な社会の実現と、防災・減災のつながりについて考えよう
災害への対策・地域調査	多様性に配慮し「共助」のためにできることを考えよう

方法(2)災害の概念を理解した上で地理的事象を学ぶ。



台風や地震など、人の暮らしを脅かす可能性が高い自然現象をハザードという。ハザードが人の暮らしを襲いそこに被害をもたらすと「災害」とよばれる。ハザードは災害のきっかけ（誘因）である。

社会が脆弱だとハザードを受け止められず大きな災害が起きてしまう。社会の防災力を高めるには①地形、気象など地域ごとのハザードの特徴・メカニズムを理解する②自然環境・社会環境による人の暮らしへの影響（災害の背景）を理解し、被害を大きくする素因の解決に取り組む③過去の災害を元に災害発生～復旧～復興の災害サイクルに応じた対応を学ぶ 以上の3つが必要である。

【明石北高校 51 回生「地理総合」授業プリントより】



方法（3）1つの授業で1つ防災のタネをまく。  
防災以外の単元でも、防災と関連する「問い」を設定し、話し合いの時間を持つ。

## 【例】

学習内容	問い(生徒の活動)
さまざまな地図の種類	カムチャッカ半島の火山が噴火したらどこにどんな影響が出るか
GIS（新旧地形図の比較）	学校の周りの変化を見て、自然災害のリスクを考えよう
地形図の読み取り	液状化はどこで起きやすいか／土手に桜の名所が多いのはなぜか
世界の状況と観光	被災地におけるオルタナティブ・ツーリズムを考えよう
世界の主食と食文化	災害にそなえてどんな非常食を準備しておくか考えよう
宗教と人々の暮らし	様々な宗教の慣習に配慮して避難所に必要なことを考えよう
プレートテクトニクスと地形	インド洋大津波の震源地に近いシムルー島で被害が少なかった理由を考えよう
地形と暮らし	後背湿地が宅地化されたことでどんな災害リスクが生じたか
海岸地形	陸繋島と陸繋砂州ではどちらが住みやすい（安全）か
人の手づくりかえられる海岸	「森は海の恋人」運動から、ダムの影響を考えよう
気候と暮らし	マングローブの伐採が暮らしの安全に及ぼす影響は
情報産業の生活	ICTで災害イメージは変わるか ※浸水・土砂災害 AR 体験実施
発展途上国の都市問題	スラムの災害リスクを考えよう ※耐震構造実験実施
地球的課題と国際協力	SDGs のゴール・ターゲットと防災との関連を考えよう



左：液状化実験 右：耐震構造実験



方法（４）長期休業を活用する。

＊冬季休業課題は科目「公共」と科目間連携の上で実施

【夏季】まちの「リスク」と「安心・安全」を見つける  
～地域調査～

【目的】普段何気なく通り過ぎて「まち」の様子を「リスク」・「安全・安心」の視点から見直し、他の人と共有して、一人一人の防災意識と災害対応力を高めます。

【手順の指示】

1. 自分が調べたいテーマを決める。(例) 通学路で危険なところ(リスク) & 災害が起きた時に駆け込めるところ(安心・安全)
2. 仮説を立てる。(例) □□や○○は、災害時の避難場所として有効ではないか
3. 仮説を検証する。

仮説に沿って、【資料調査】(地理院地図、今昔マップWeb、各種ハザードマップや、市町村ホームページにある防災情報)と【まち歩き】を行い、A: リスク と B: 安全・安心 に関する写真を撮ります。

4. まとめ

検証の結果(わかったこと)をレポートにまとめます。

5. 共有と発表・振り返りとまとめ

授業でレポート発表を行います。その後ふりかえりを行い「周りの人に伝えたい防災」を簡潔にまとめます。

【冬季】安心・安全で住みやすいまちづくりに向けて～提案ポスター作成～

【手順の指示】

1. 「地理総合」もしくは「公共」の夏季課題を素材として明石市の現状と課題を挙げ、市長に向けて提案を行うためのポスターを作成し、プレゼン用の原稿も準備します。
2. 相互評価を行い、クラスの代表を決めます。
3. 市長来校当日、全員のポスターを掲示します。プレゼンおよび市長との質疑応答はクラス代表が行います。



左：地域調査レポート 右：プレゼン用ポスター



方法（５）防災ワークショップを取り入れる。

【学習指導案】

1 単元 さまざまな地球的課題（持続可能な社会の実現に向けた地球的課題の解決の方向性）

2 講師 齋藤 幸男氏（東北大学常勤講師、元宮城県石巻西高等学校長、防災士）

3 テーマ 災間を生きる～過去・現在・未来の災害と向きあう～

4 目標 私たちが地球の大きな営みの中にある「災間」を生きていることを認識し、過去の災害の教訓をもとに災害対応について考えることで、命と持続可能な社会を守るための防災活動につなげる。

6 実施形態 2クラス合同、50分×2コマ

7 教材 ①齋藤幸男氏考案「災害発生後の課題と対応ワークショップ～若手人材育成のために」②齋藤幸男氏考案「避難所運営の実際と教訓」

8 準備 「災害発生後の課題と対応」（考えるヒント：8つの動画資料）の中から、指定された1つのテーマについて視聴し、内容をメモしておく。

\*考えるヒント：東日本大震災で災害対応にあたった方々に齋藤幸男氏がインタビューする形で当時のことを語ってもらい記録したもの。テーマは ①避難所運営 ②学校支援 ③生活再建 ④仮設住宅 ⑤がれき処理 ⑥地域医療 ⑦支援物資 ⑧災害ボランティア

9 展開

（1時間目）指定されたテーマでグループワークを行い、課題と解決に向けての提案をまとめて発表する。

（2時間目）避難所で起きる様々な「正解のない問い」に対し、グループで話し合い「成解」を見つけ発表する。



左：災害発生時の課題と対応を班でまとめる  
右：まとめたことを全体で共有する



## 実践内容 2 特別活動との連携

- ①防災教育講演会：講師 諏訪清二氏（防災学習アドバイザー・コラボレーター、防災教育学会長）
- ②人権教育講演会：講師 津久井進氏（日本弁護士連合会・災害復興支援委員、公益財団法人こども財団理事長）
- ③SDGs 講演会：講師 中野元太氏（京都大学防災研究所助教）

SDGs と防災は何かしらの観点でつながって、SDGs を達成しようとする中で防災になっていくことがわかった。SDGs は環境を良くするためのものと考えていたけれど、防災につながるように他にもつながるものはないか、いろいろな視点で考えて調べていきたい（生徒感想より）

## ④防災 LHR（ワークショップ）

- (1 学期テーマ) 多様な方々に配慮した避難所とは
- (2 学期テーマ) 下校中に地震が起きた時の対応



左：1 学期（ピクトグラム作成） 右：2 学期（クロスロード）

## 成果

- (1) 生徒のレポートを元に「防災だより」を定期的発行：生徒から生徒へ防災を伝える取り組みを始めた。
- (2) 課題研究や探究活動への波及：防災をテーマにする生徒・グループが生まれ、外部コンテストでも発信した。  
(例)「災害時に避難場所となる公園のバリアフリー化を推進する」(2023 年度第 6 回キャタピラーSTEM 賞 奨励賞)
- (3) 防災について多角的な視点を持てたり、身近な防災や被災地支援に対する関心を高めて実行に移したりする生徒が生まれた。令和 6 年能登半島地震に際しては発災直後から支援の機運が高まり、リーダーを中心に生徒が主体的に被災地の状況を調べ、募金への協力を呼びかけている。



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。  
該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

**この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。**

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした	地歴公民科の教科会議でチャレンジプランの趣旨を全員が共通理解した上で、科目「地理総合」の担当者（2名）を決めた。
2. 【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした	地元の商店街や生活協同組合のイベントに参加するにあたり、チャレンジプランの説明を行い、イベントに防災の要素を取り入れることを提案し了承を得た。
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った	教科会議・職員会議で定期的に進捗状況を報告した。
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した	まず2年生「地理総合」履修を軸とした。次に、生徒が学んだことを発信したり、他の学校活動に反映したりする形で活動を広げていった。
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた	「地理総合」授業案作成を準備の核とした。また防災LHR・研修などの学校全体の通常の防災活動とチャレンジプランを重ねることで、準備時間を効率的に確保した。
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した	授業を核としているため活動場所の工夫は不要だった。講演会や生徒の発信機会も、従来行事を活用して実施することを前提とした。
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した	
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた	担当者が学校外の研修会に参加したり、各専門家と直接もしくはメール等でやりとりを行ったりして、知識・情報を収集した。
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：webサイトを引用した	防災教育・防災学習のコンテンツを紹介する専門書やwebサイトを活用するだけでなく、地理総合の授業アイデアを紹介する情報誌（教科書会社等が編集・発行）を活用した。また専門家に直接相談した。



<p>10. 【実行段階】<u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた</p>	<p>実行委員であり本校のOBである諏訪清二先生に助言を求めた。</p>
<p>11. 【実行段階】<u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した</p>	<p>明石市独自の地域連携部署「市民とつながる課」に連絡し、プランの趣旨を説明して協力をお願いした。</p>
<p>12. 【実行段階】<u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した</p>	<p>「地理総合」の授業の他、活動をより充実させるためにLHRや講演会も活用し、例年通りに企画されている学校全体の計画をほぼ変更せずに進めることができた。</p>
<p>13. 【実行段階】<u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた</p>	<p>PTAからの補助を活用する従来の講演会（人権講演会、SDGs講演会）に防災教育の要素を取り入れることで、講師謝金を確保した。</p>
<p>14. 【実行段階】<u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	
<p>15. 【継続段階】<u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた</p>	<p>「地理総合」は2名で担当し、次年度はうち1名を入れ替える予定である。また防災LHRは、指導案を職員会議で共有（兼・職員研修）した上で各クラス担任が実施し、誰もが指導できる形にした。</p>
<p>16. 【継続段階】<u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った</p>	<p>授業案（授業プリント）や課題、ワークショップ教材をデータ化し、誰でも活用できる形で残した。</p>
<p>17. 【継続段階】<u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：webサイトで発信した</p>	<p>生徒との学びを元に「防災だより」を作成し、定期的に全校に向けて発行した。また防災学習の要素を探究活動に取り入れ、その成果を元に外部コンテストに応募した。</p>
<p>18. 【継続段階】<u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した</p>	<p>1年間のふり返りとして生徒にアンケートを実施し、学習成果の定着度や防災に対する意識・態度の変容をはかり、次年度以降の活動改善に反映する予定である。</p>



<p>今後の活動予定・今後の展開</p>	<p>地理総合の授業のまとめとして、2年生学年末に「夢と防災」をテーマとする調べ学習を行う。進路選択を目前に控える中、「自分が将来やりたいこと・進みたい道に、防災はどのようにかかわってくるか」を考えることで、防災に対するわがこと意識をより明確にする。夢と防災をつなぐことができれば、ひとりひとりが夢に向けて努力を重ねることで社会の防災力向上につながっていくと考える。</p> <p>今年度使用した教材（作成した授業プリント、資料スライド等）は校内で共有し、担当者が交代しても使用できるように準備していく。今年度は「地理総合」「公共」の科目連携が実現したが、教材や授業内容を地歴公民科だけでなく他教科の教員も閲覧できるようにすることで、将来的に教科間連携につなげたい。（※本校はこれまで「生物と保健体育」の連携などの事例があり、教員の関心は高い。）</p> <p>齋藤幸男氏考案のワークショップ指導案は、災害の全体像を理解し対応できる人材育成に向けた試みとして、どのような校種でも、また行政や企業でも活用しやすい形に整え、広く公開していく予定である。</p> <p>学びの成果を活かす取り組みである、夏季課題レポートを元にした「防災だより」の発行は今後も継続していく。時事的・時期的なもの（例：「9.1」「1.17」「3.11」など）に応じて適当なレポートを選定して載せているが、どのレポートにも他者に伝えたい防災の思いがあふれており、すべてを紹介しきれていない。生徒には「自分の考えを、自ら発信していく努力・工夫」も呼び掛けていきたい。</p>
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。**

<p>その他（PRポイントなど）</p>	<p>3学期末に生徒主体の（生徒がファシリテーターとなる）実践的な防災学習を行う。昨年は教員がコンテンツを考えましたが、今年度は地理総合履修者からアイデアを募集する。</p>
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------